

〔科目名〕 知の挑戦Ⅰ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 三浦英樹						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 演習テーマ「自然地理学と歴史学の視点から自然と人間の関係(環境史)を探り、地域の未来について考える」 ① 現在の人類の位置づけを知り、自然と人間の相互関係について考えること ② 持続可能な社会を作るための自然を生かした技術や文化について考えること ③ 人間がもともと持っていた生態知、在来知、暗黙知の記録・評価を行い、現代社会への活用について考えること							
〔演習内容〕 「地理空間情報学」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」、「青森県を中心とした北東北地域の地理学的知識」の習得、習得した知識やそれから導かれる考えを文章や口頭で発表すること。							
〔科目の到達目標〕 「地理空間情報学(地図の読み方)」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」の基本を学び、「風景と自然を読む技術」、「人間と自然の関係性とその歴史を読む技術」、「調べたこと、観察したことを他人に伝える技術」を習得すること。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 ・教養科目の「地球科学」、専門科目の「地形地理情報論」を合わせて履修すること。 ・風景(地形)の成り立ちに強い興味がある人、自然が大好きで山や森に出かけたいという志向がある人、自然の成り立ちやそれと関わる人々の歴史や伝統文化・技術に興味がある人、地図を読むのが大好き(になりそう)という人。 ・① 対象とする地域の自然の成り立ちやそれと関わる人々の歴史を明らかにして、それを人にわかりやすく説明しようとする意欲があり、② その知識をどのように、地域の魅力に繋げていくかというアイデア創出を楽しめる人。 ・難しい数学や科学の知識は必要ないが、それらの説明を理解しようと前向きに取り組める人、野外を長時間歩いたり、穴を掘ったり、崖を記載したり、植物を丹念に調べて地図に落とす、顕微鏡観察など、泥臭い仕事を黙々と根気強く行う能力を持っている人。 ・文献をきちんと読んでまとめて発表できる意欲と能力がある人。あるいはそれを身につける努力をいとわない人。 ・夏休みや土日を含めて、長く(あるいは頻繁に)フィールド調査に出られる時間の余裕、フィールドワークに係る経費の自己負担が必要になるので、その余裕がある人。 ・演習やフィールドワークで必要となる「地形を感じる3D地図アプリ『スーパー地形』」(iOS版:960 円、Android版:年間750 円、パソコン版:年間1680 円)を購入してもらうので、それが可能な人。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) レポートの内容、演習・フィールドワークへの取り組み状況にもとづいて総合的に評価する。							
〔教科書等〕 貝塚爽平他編(2019)『写真と図で見る地形学 増補新装版』東京大学出版会、他は、その都度指定する。							

【実務経歴】 なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
第 1 回 ～ 第 9 回	テーマ：「地理空間情報学」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」、「青森県を中心とした北東北地域の地理学的知識」の習得 内容：ゼミ志望時に提出したレポートを全員で共有して、文章の書き方、および興味がある地域の自然、歴史、文化に関する説明と議論を行う。
第 10 回 ～ 第 15 回	テーマ：「地理空間情報学」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」、「青森県を中心とした北東北地域の地理学的知識」の習得 内容：テキスト『写真と図で見る地形学 増補新装版』を分担・発表を行う。
夏休み	ゼミ志望時に提出したレポートの内容の再検討と書き直しを行う。青森県内等のフィールドワークを行い、地形や自然環境と人間の生活・文化・歴史に関する調査を行う。
第 16 回 ～ 第 19 回	テーマ：「地理空間情報学」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」、「青森県を中心とした北東北地域の地理学的知識」の習得 内容：再作成したレポートの説明とそれに基づく議論を行う。
第 20 回 ～ 第 30 回	テーマ：「地理空間情報学」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」、「青森県を中心とした北東北地域の地理学的知識」の習得 内容：テキスト『写真と図で見る地形学 増補新装版』を分担・発表を行う。